

国際鉱床学連合第8回集会(IAGOD-90)の報告

石原 舜 三¹⁾

まえがき

国際鉱床学連合 (International Association on the Genesis of Ore Deposits, IAGOD) 集会は、4年に1度開かれる鉱床学分野の重要な国際会議であり、同じく4年に1度開催される万国地質学会議 (International Geological Congress, IGC) の中間年に設置されており、今回で第8回を迎えた。この集会に対する我が国からの出席者も多く、その内容はその都度「鉱山地質」や本誌などに紹介されている。最近5回の開催地、日本人出席者数、集会の報告者などは次の通りである。

- 第4回 (1974年): バルナ, ブルガリア 7名
(佐々木, 1975)
- 第5回 (1978年): スノーバード, ユタ (米) 13名
(IAGOD 小委, 1979)

- 第6回 (1982年): ツピリシ, ソ連 4名
(堀越, 1982)
- 第7回 (1986年): ルレオ, スエーデン 8名
(渡辺・鹿園, 1986; 石原, 1987)
- 第8回 (1990年): オタワ, カナダ 11名
今回はカナダのオタワ市で約600人の参加規模で行われた。会議の正式報告は学術発表を中心として別に瀧江ほか (1990) により行われる。ここでは、2年後に IGC-92 を京都で開く時期に当る折から、国際集会を開く立場からの評価を主体に報告してみたい。

会場について

IAGOD-90はカナダの首都、オタワ市 (写真1) のカールトン大学校舎で行われた (本会議: 8月12-17日, 野外巡

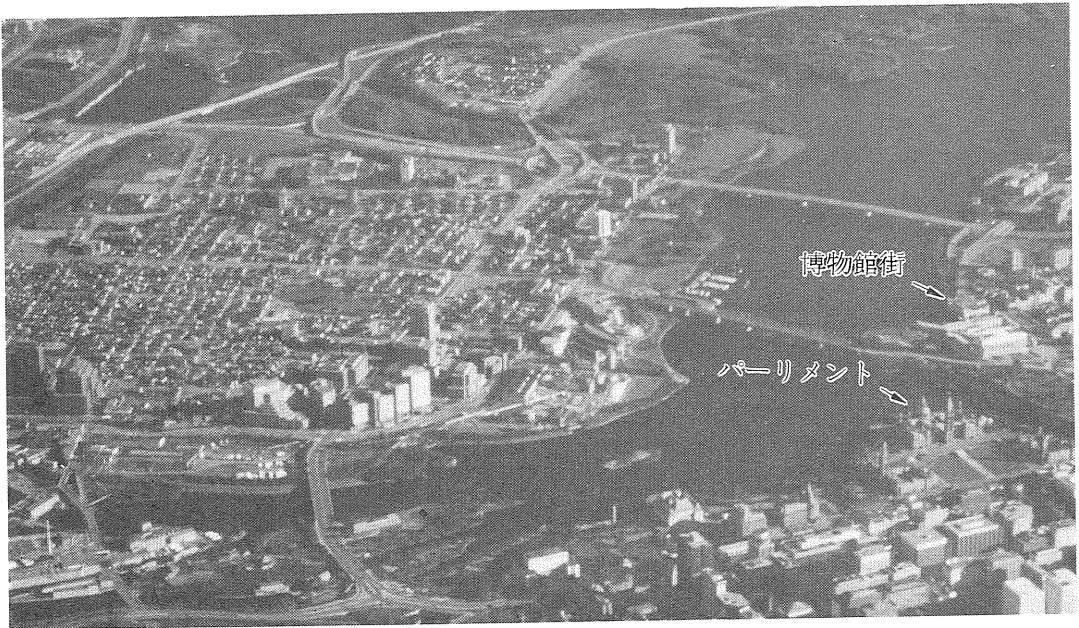


写真1 空からみるオタワ中心街。パーリメントの手前はショッピングやビジネス街。右手に博物館、ホテル街、コンベンションセンター、マーケットなどがある。

1) 地質調査所 所長

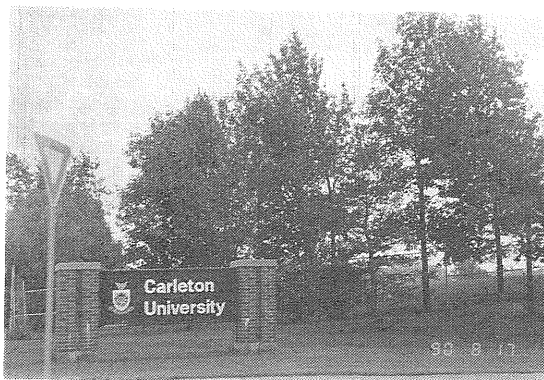


写真2 会場となったカールトン大学の表札。

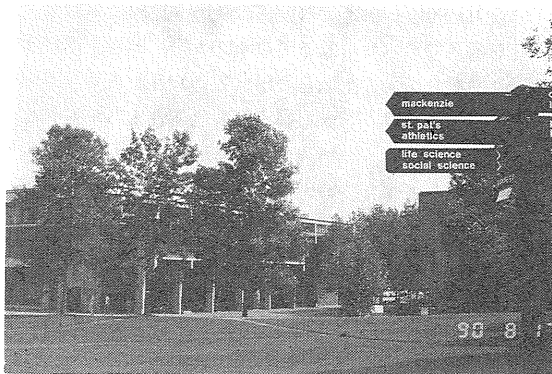


写真3 大学校舎と案内板。芝生が大変美しい。

検：8月5—11日，8月19—26日）。カールトン大学はオタワ中心街の北方周辺部にあり，空港へは更に約9kmの位置にある。私は8月5日に到着したが，大学へはタクシーを使うよう指示されていた。料金はチップを入れて15カナダドル（以下ドルと略記，邦貨1,650円，@110円）で安価と言えよう。

西欧では，大学キャンパスで学会がしばしば開かれるが，その第一の利点は宿舎が安いことであろう。今回は37ドル/日（朝食付き）であったが，もちろんバスタイレは共用である。第二の利点として宿舎と討論会場との近さがあるが，今回は各学部の主要講堂を会場としたために，1×2 km くらいの区域に会場を求めて歩き回った学会出席となった。カールトン大学では長い雪の冬場に備えて地下歩道が中央を走っている。期間中に雨が多く，これは便利ではあったが，歩く距離は増加した。

一方，欠点としては中心街に対する不便さであろう。オタワではパーリメント，博物館，マーケットなど魅力的な所が多い（写真1）。そこで同伴出席者が多いカナダ

やアメリカの出席者達はホテル街から郊外のカールトン大学へ“通勤”することとなる。実はオタワにも公立の立派なコンベンションホールがあって，オタワ大学教授で組織委員会の副会長でもあった服部恵子氏によると，このホールを使う意見も相当に強かったそうである。経済的にもこちらに移すことで登録料130ドルを10ドル程度値上げすれば会場費も捻出できたとのことであったが，最終的にはカールトン大学となった。いずれにしても，ほぼ無料の大学と同じ程度の借料で使える公立のコンベンションセンターがあることは（実は北米の大一中都市には大体揃っている），美しい限りである。

参加者について

IAGOD-90は8月に実施されたが，登録表・講演要旨・事前登録費（130ドル）の送付，野外巡検参加申込みと予約金（125ドル）の送付はいずれも同年1月1日であった。



写真4 IAGOD-90の開会式風景。

IAGOD-90の参加者は本会議 569 名、巡検のみ39名、合計 608 名であった。参加国数は50カ国、国別上位は次の通りであり、カナダからの出席者が49%を占め、隣国のアメリカ人が以外と少ない点が特色と言えるかも知れない。

- | | | | |
|-------------|------|----------------|-----|
| 1) カナダ | 296名 | 7) オーストラリア | 13名 |
| 2) アメリカ | 80名 | 8) 日本 | 12名 |
| 3) ソ連 | 72名 | 9) フィンランド、インド | |
| 4) 中華人民共和国 | 26名 | スペイン、イギリス各 | 11名 |
| 5) ドイツ | 17名 | 10) フランス、南アフリカ | |
| 6) チェコスロバキア | 14名 | 各 | 10名 |

一方、国際会議開催で常に問題となる欠席者数はどうであろうか。組織委員会によると、まず1990年1月1日の登録者は773名であり、その8カ月後の会議に無断で欠席した人は126名(16.3%)、届けて参加を中止した人が39名(5.0%)で、実に21%の申込み者が登録後に参加していない。無断欠席者は、ブルガリア(欠席率100%)、ソ連(65%)、ブラジル(57%)、ポーランド(46%)、インド(45%)が目立つ。ついで中国(16%)、アメリカ(11%)、残りは10%以下で許容範囲と言えよう。これらの欠席者は申込み時に登録料はもちろん入金しておらず、外貨事情も背景にあるようである。

講演と展示について

講演申込みは外国人を主体として438件が accept された。そのうち発表に至ったものは265件(60.5%)、中止となった理由は(1)登録書類が未着90件(21%)、(2)無届け欠席であったもの67件(15%)、参加できないと断って来

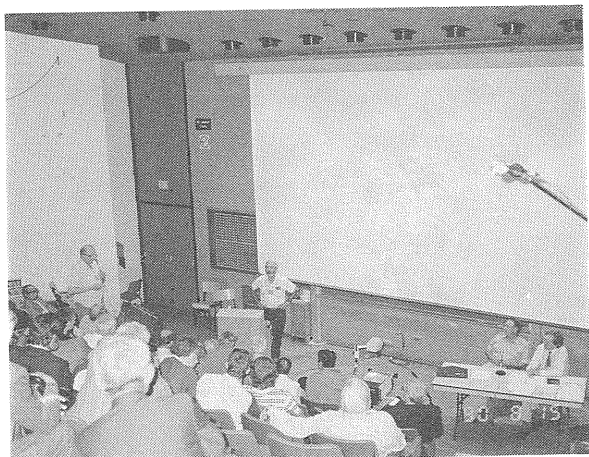


写真5 総会時において無断欠席者対策として動議を提案したサングスター=プログラム委員長(中央)と社会主義国の事情説明をするJ. クチーナ教授(左、チェコスロバキアから米国へ帰化)。



写真6 白壁が多く不評を買ったポスター講演場。

たもの16件(3.7%)であったと言う。したがって今回のIAGODでも昨年のIGC-ワシントンと近いくらいに講演の中止があった。

この件は、8月15日夜の総会時に大きく取上げられた。D. サングスター=プログラム委員長(カナダ)は無断欠席者を防ぐ方法として次の提案を行い(写真5)、承認された。それは、アブストラクト提出時に、30米ドル(今回の1件についての印刷費)を払い込む、払い込みがないものは印刷しない、参加者のこの金額は参加が確認された時点で登録料から差引く、と言うものである。他の方法として、特に外貨枠規制のある国では所属長のサインをそえてアブストラクトを送る制度として、出席の確かさをチェックするなどの提案があった。

発表の“アキ”はポスターセッション(写真6)で更に目立った。これには62件が予定されていたが、発表されたものは35件(56.5%)に過ぎなかった。発表予定者のボードはタイトルと発表者名と共に放置されたので、白色ボードが非常に目立ったのである。ちなみに空白のボードを数えると、キャンセル者はソ連8、中国9、インド5、ブラジル2、西欧1、カナダ1、国籍不明1であった。

口頭発表件数は、国別には、カナダ68、アメリカ50、ソ連19、中国とインド各16、ドイツ10、日本とチェコスロバキア各9、南ア共和国7、オーストラリアとフランス各6であって、組織委員会は自国の発表をかなり押えた形となっている。

展示は国と州の地質調査所、鉱山会社が主体であり(写真7)、機器メーカーは皆無に近かった。地質図や文献の即売も行われた。コアやサンプル展示も同一場所で行われたために著名鉱山の地質を居ながらにして知ることができ、常に多くの人を集めていた。4時半にはビー



写真7 展示場遠景(右上). その近景(左上). サンプルが多い点に注目(右下). 小さな州であるが見事な展示場を設定したニューファンドランドとラブラドル州地質調査所(左下).

ルの販売が行われたことも、人気に拍車をかけていた。

IAGOD 役員会について

役員会は8月14日夜、長時間に亘り、R. W. ボイル会長(カナダ)以下12名の役員(写真8)と3名のゲストが出席して行われた。日本からの出席者は堀越勲副会長および筆者であった。

まず、C. B. スクラー財務委員(米)から会計報告があり、1990年8月現在の残金は6,140米ドル、会費はここ2年間は8米ドルに据置くこと、引退メンバーに代る新メンバーを補充し会員確保に努めることの必要性などが、報告・提案された。J. アイヒラー事務局長(チェコスロバキア)から、IAGOD Newsletter 89 発行などの活動(印刷費6000 Kcs, @8円, 邦貨48,000円)をチェコスロバキア地質調査所と同国国内メンバーの寄金で実施した旨の報告と、1990年以降の活動に対する補助が要請された。

ゲスト出席の九州大学井澤英二氏から日本の対応国内委員会である鉱床学専門委員会の事務局長の立場から、

1990年12月号

各国に IAGOD 国内委員会を作り National member を制度化し、その会費により IAGOD の活動を強化する旨の提案がなされた。この提案は、M. シュテムプロク(チェコスロバキア)副会長をチーフとする4人委員会を設けて前向きに審議されることとなった。

さて、今回の評議員会で議論が白熱したのは、IAGOD の次期開催国に関するものである。この件は、昨年の IGC ワシントンの会合で北京開催で結着をみていたのであるが、天安門事件、今夏の IMA 会議の巡検における中国側の不手際などから、北京開催に対する不安が一気に吹出し、次次回に予定されていたオーストラリア、ブローケンヒル開催案が次回案として急提提出されたものである。

G. カウツキー前会長(スウェーデン)から前回のルレオ開催以降のこの件に関する経過説明があった後、書面によってブローケンヒル開催案が提出され、(i)当地が鉱業の中心であり、(ii)講演・会場設備・巡検環境などが整っていること、(iii)政治的にも安定していることが説明された。一方、中国側もより進んだ計画案を配布し、(i)オーストラリアは1988年に開催を断念している、(ii) IMA 巡

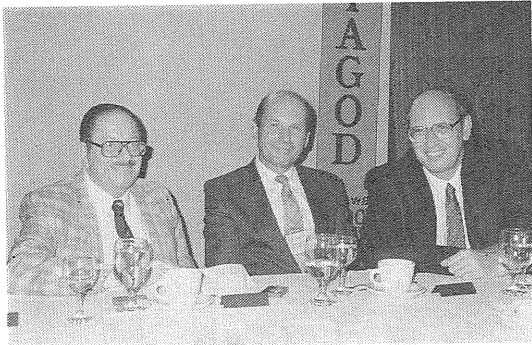


写真8 IAGOD-90の要人達。左からカナダのボイル会長，チェコスロバキアのシュテムブロック副会長，特別講演者2名のうちの一人，カナダ地質調査所の J. フランクリン。

検でみられた不手際は2度と起さない，開催は中国政府により承認され経済的不安はない点を強調し，予定通りの開催を主張した。

2時間以上に亘るいろいろな角度からの検討の後，最終的には投票となり，参加者が不安なく参加できる環境作りの条件と共に9：3で北京開催が決定された。長い一日であった。各役員の発言のなかで興味深かったのは，IAGOD 創設者の一人であったチェコスロバキア地質調査所のM. シュテムブロックが，「IAGODは原則的に東西交互に開催されていたことだし…」と議論のあとの方でぼそっと述べた点であり，東側主導とばかり思われるIAGOD も近年は西側主導に移行していることを明らかに示しており，最近の東西関係緩和をIAGOD は先取りしていた感を受けた。

IAGOD-94の予告について

以上のようにして決定された IAGOD-94 は中国地質産産部の地質科学院の主導権のもとに，1994年6月28日—7月4日北京の新しい国際会議場で開かれる。提出された計画書によると，各省庁間の協力体制は出来上り，盛りだくさんの内容から構成されている。

まず招待講演が6件，自国の中国の中国地質科学院のほか，チェコスロバキア，オーストラリア，アメリカ，カナダ，ソ連の“地質調査所”へ依頼される（残念ながら日本やアジア諸国は入っていない）。IAGOD の分科会は全て討論会に取上げられる。この分科会は IAGOD-86（ルレオ）で数多く承認されたため現在では10件となっている（澁江ほか 1990参照）。他に独自のトピックスが6件程度討論会として予定されている。

野外巡検は15ルートが計画されている。その多くは華東であるが，内陸や西域の巡検もふえており，下記のように大変興味深そうなものが多い。

- 1) 山東省の先カンブリア紀変成岩，花崗岩，鉄鉍床と金鉍床
- 2) 内モンゴル，バイユン・オボの REE-Nb-Fe 鉍床と金鉍床
- 3) 東北部，遼寧省の鞍山型鉄，ボロン，マグネサイトとダイヤモンド鉍床
- 4) 山西省のポーフィリー Mo 鉍床と Au 鉍床
- 5) 桂林のカルスト地質と大廠 Sn 多金属鉍床
- 6) 桂林のカルスト地質と湖南省の W, Sn, Pb-Zn, レアメタル鉍床
- 7) 楊子江中-下流部の Fe, Cu, S 鉍床



写真9 集会最終日のお別れレセプションの風景。役員はバグパイプ演奏の先導で席に着いた。

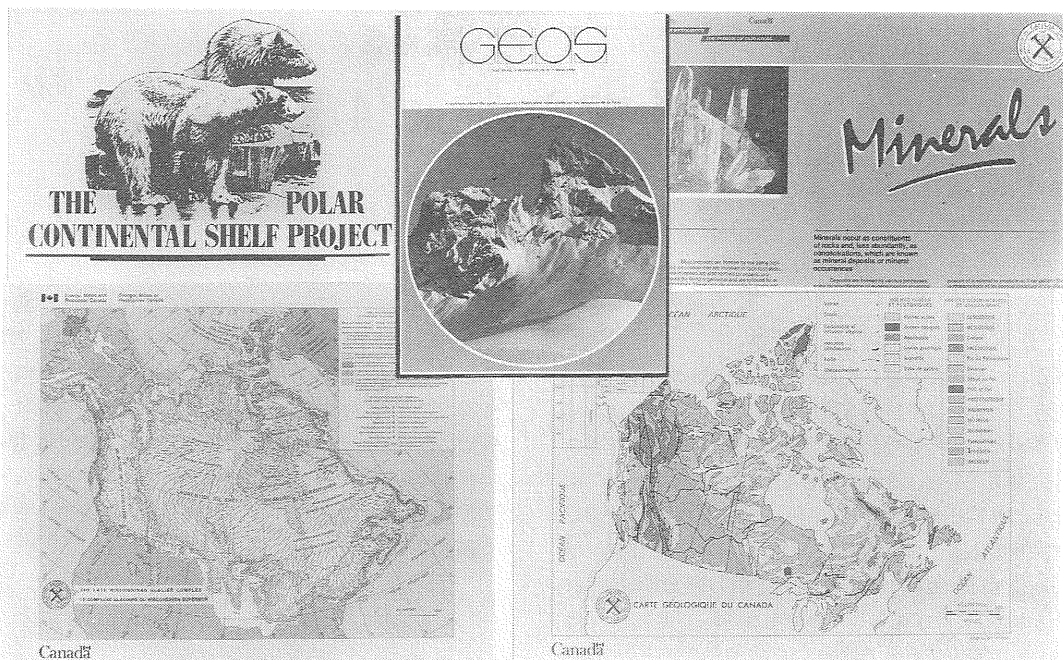


写真11 カナダ地質調査所が参加者に無料で配付した出版物の一部。左上：北極圏の調査・研究支援体制を紹介するパンフレットの表紙，上中：EMRの季刊誌 (37ページ) の表紙，右上：一般大衆向け鉱物の解説用パンフレット (部分)，左下：ウィスコンシン (ウルム) 氷期の氷河分布図，右下：カナダの地質図 (フランス語版)。

- 8) 江西省南部のタングステンとレアメタル鉱床
- 9) 広東省の Pb-Zn 多金属鉱床
- 10) 湖南省の Sb および W-Sb-Au 鉱床
- 11) 甘肅省の Cu-Pb-Zn 塊状鉱床と Cu-Ni 鉱床
- 12) 雲南省の Sn 多金属鉱床
- 13) 四川省の Ti 磁鉄鉱鉱床
- 14) 新疆ウイグル自治区のレアメタルペグマタイトと塩湖
- 15) 山西省の先カンブリア紀ポーフィリー Cu 鉱床と Cu 塊状硫化物鉱床

あとがき

今回の IAGOD-90 は、会場はカールトン大学ではあったものの、集会の準備はカナダ地質調査所が中心となっておこなった。科学プログラム、出版、野外巡検など主要な実務の役員はカナダ地質調査所の研究者が担当し、14冊の野外巡検ガイドもカナダ地質調査所のオープンファイルシリーズとして出版された。

参加者にはカナダ地質調査所からのおみやげとして、カナダ地質図 (1/5,000,000, 1989年版)、鉱物資源図 (1/7,603,200, 1989年版)、要覧のほか、10点に達する印刷物、

ラスターバッジなどが無料配布された。カナダ地質調査所なくして、IAGOD-90は成立しなかったと言って過言ではない。

終りに統計資料を送って下さった IAGOD-90 組織委員会に謝意を表したい。

文 献

堀越 毅 (1982) : IAGOD 評議員会からのお知らせ. 鉱山地質, 32, 483-484.
 IAGOD 小委 (1979) : 国際鉱床学連合 (IAGOD) 第5回シンポジウム報告. 鉱山地質, 29, 67-69.
 石原舜三 (1987) : 北欧の鉱床—第7回 IAGOD に参加して. 地質ニュース, no. 393, 21-41.
 佐々木昭 (1975) : 第4回 IAGOD 集会に参加して. 地質ニュース, no. 248, 39-43.
 澁江靖弘・井澤英二・石原舜三・鞠子 正 (1990) : IAGOD 第8回シンポジウムの参加報告. 鉱山地質 (投稿中).
 渡辺 順・鹿岡直建 (1986) : IAGOD 第7回総会に参加して. 鉱山地質, 36, 575-579.

ISHIHARA Shunso (1990) : A report on the 8th IAGOD meeting.

<受付：1990年10月25日>